



SMIC CSR REPORT 2014

千住金属工業グループ CSR 報告書

つないでいるのは、未来です。

千住金属工業は、接合技術で社会に貢献するグローバル企業です。
地球環境保全が人類共通の使命であるとの認識のもと、
持続可能な社会の実現に向け、効果的な環境活動を全員参加で推進します。
また、社会から信頼され続ける企業を目指して、
グローバルにコンプライアンスの浸透に取り組んでいきます。

編集 方針

千住金属工業グループの重要課題と社会的要請の高い項目について報告するよう努めています。海外のお客様の増加に伴い、海外赴任経験者も増えており、このような現状の姿を読者に理解いただくために、グローバル化に対応した海外赴任社員と多様性に対する取組として女性の活躍する姿を特集します。また、「社会」「環境」「経済」の3つの“誠実さ”に沿って報告し、事業を通じての社会問題の解決に取り組んだ結果を事例として報告します。

CONTENTS

目次

- 1 編集方針
- 2 目次
- 3 トップメッセージ
- 4 経営の理念

特集

- 5 グローバル展開を加速
- 7 女性の活躍する企業
- 13 環境に配慮した製品で社会貢献
- 15 第1～第3世代の社会貢献

経済

- 17 ガバナンスと経営状態

社会

- 18 お客様と従業員の関わり
- 19 調達先との関わり
- 20 従業員や地域社会との最良の関わり

環境

- 21 エコ・ファクトリー
- 24 生物多様性への配慮
- 25 エコ・プロダクツ

対 象 期 間 2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日（一部 2014 年 3 月以降の最新情報も含まれます）

対 象 範 囲 グループ会社 27 社（非連結子会社と関連会社を含む）。ただし、環境活動は別途明記

対 象 変 動 連結子会社の増加・減少はなし

加 入 団 体 EICC・日本溶接協会・JEITA・JAPIA・東京経営者協会・商工会議所

発 行 履 歴 今回：2015 年 4 月（前回：2014 年 4 月）

次 回 発 行 予 定 2016 年 4 月（GRI ー G4 ガイドラインと紛争鉱物対応結果を反映するため）

参考ガイドライン GRI ガイドライン・環境報告ガイドライン・ISO26000
* GRI ガイドライン対照表は弊社 CSR WEB サイトに掲載予定です。

免 責 事 項 この報告書には、千住金属工業の将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。
これらの記述は、千住金属工業が現時点で把握可能な情報から判断した事項及び所信に基づく見込みです。



ソーシャル・イノベーション時代に向けて

少子高齢化による人口構成の変化と地球温暖化に伴う環境の変化が、価値観の多様化や固有技術の進化を必要とし、とてつもない速さで共通する社会問題のソリューションを求めています。

今年度のCSRレポートは、「グローバル展開を加速」「女性の活躍する企業」「環境に配慮した製品」を特集し、千住金属工業の社会問題への取り組みを具体的に報告させていただきました。

グローバル化では、生産サービス体制の強化やセールスエンジニアの増強を図り、世界のお客様に満足していただける即時対応力の高い組織づくりと、長期的な人材育成に力を入れ従業員一人一人の成長を目指しています。

女性社員が生き生きと活躍できる企業を目指し、教育プログラムの充実と、育児・介護と仕事の両立を支援し、男女共同参画を推進しています。また、性別・年齢・国籍に影響されない、働きやすい職場づくりを進めています。

気候変動や資源の有効活用、人間の健康や環境を脅かす化学物質の管理など、環境問題は工場での管理だけではなく、製品の材料発掘から廃棄に至る全ライフサイクルで配慮し、地球に優しい独創的な高付加価値製品を開発しています。

はんだの原料であるスズなど武装集団の資金源とされる「紛争鉱物問題」は重要課題と認識し、定期監査などを通して「紛争フリー完了宣言」を行い、サプライチェーンの川上企業として責任ある調達を行っています。

毎月、千住金属工業グループのCSR会議を開催し、工場の省エネ化・廃棄物ゼロ化・化学物質の管理などのエコ・ファクト

リーと、環境に配慮した製品の創出を目的とするエコ・プロダクツを推進し、グローバル企業として地球との共生を図ってまいります。

千住金属工業は、長年にわたって社会・環境・経済と調和のとれた企業活動を通じて、お客様から信頼・信用さらには期待といったブランド価値を与えていただきました。今後も、社会に貢献できる新製品の販売比率を高めることでさらにブランド価値が向上し、持続可能な社会、継続可能な企業となるものと確信しております。

今後とも、お客様やお取引先様とのパートナーシップを深め、さらに強固な相互信頼関係を築いてまいります。



代表取締役会長

長谷川 永悦

有用な製品を 世に供給することで、 公器としての 使命を果たす。

会社は社員共同の生活の源泉であり、人間完成の道場である。
されば先ず第一に会社の発展がそのまま社員の幸福 — 物心両面の成長に直結することを念願する。他方、会社存立の基盤たる現代社会は、日々不断に会社が優れた有用の製品を世に供給することを期待している。我等は社員と社会のこの二つの立場における要求を調和充足しつつ、その過程を通じて人類の平和と進歩に寄与し、もって公器としての使命を果たすことを経営の理念とする。

然らば、この理念のもとに結集し、会社発展の推進力となり、自己の人生を十二分に開花結実させるための必要にして且つ十分なる条件は何か — いわく実力、いわく誠実、いわく闘魂……まことにこの三ヶ条こそあらゆる生活の場における三種の神器である。

またこの三条の満たされるところ、そこにはおのずから明るい職場、平和な職場、活気溢れる職場が築かれるであろう。この職場を原動力として、日に新たに日に新たに、また日に新たな開拓者精神を推し進めるならば、あらゆる苦難を乗り越えて会社は成長発展を続けてゆくものと確信する。願わくば我々は共にこの理念を身につけ、活力あらしめ、そして我等が職場に平和と友愛の橋をかけ、明朗にして健康な生活の建設に邁進しようではないか。

昭和35年6月発表

実 力

必要な能力、プロになること

誠 実

人間としての良心、正しい心を持つこと

闘 魂

困難なことにも挑戦し、克服すること

故 佐藤 千壽 名誉会長

社長在任期間 昭和35年6月～昭和53年6月
会長在任期間 昭和53年7月～平成20年5月
名誉会長在任期間 平成20年6月～平成20年10月

— 関連書籍 —



- 「青年に期待する」 佐藤 千壽 著
- 「職業と人生」 佐藤 千壽 著
- 「40年史」(最大となることを望まず、最良となることを望む)
- 「45年史」(挑戦する技術集団)
- 「70年史」(日に新たに)

シリコンバレーで製造！



奥野 哲也 統轄部長 (2012年帰任)

1997年に米国企業へのはんだ材料の製造販売を目的としてシリコンバレーに米国子会社 Senju Comtek Corp. が設立され、その材料工場の立上げと米国顧客への対応のために赴任しました。14年間の日本での開発経験を踏まえ、お客様の「生の声」に応える営業技術サービスと、2008年からは経営者としての経験もしました。

マレーシア・香港・英国につぐ海外製造拠点の立上げでは、米国のグローバル企業のお客様への対応に徹底的に集中し、コスト競争力を意識した日系企業のお客様の多いメキシコには自分で車を運転して訪問しました。半導体産業などのお客様のニーズの先読みや必達ポイントを掴み、日本の開発部隊に早く正確に伝え、製品開発に繋ぐことが大変重要と感じます。米州全域以外では、北はカナダ、南はブラジルやアルゼンチンといった地球の裏側にも SMIC ブランドの浸透をめざした営業活動を展開しました。

スズのサプライチェーン管理における紛争鉱物調査では、ボリビアやペルーといった南米の精錬所を訪問しました。赴任当初は英語力も低く、苦労も数々ありましたが、この経験を生かして、今後のさらなるグローバル展開をますます成長させるよう進めていきたいと思っています。

|| 特集 ||

グローバル展開を加速

今日、グローバルな市場環境の変化に伴って、サプライチェーンの最適化などの改革が必要な時代になっています。千住金属工業は、サプライチェーン・マネジメントの概念が誕生した1980年代から、「海外市場で直接生産を」とのお客様からの要望に対応するために、長期に渡り海外赴任者を戦略的に育成してきました。この特集では、世界の14ヶ国・39拠点で事業を展開している千住金属工業の変革を加速している姿をご紹介します。



信頼関係の構築に時間をかけます



欧州地域：
岡 均 社長

37年間の企業人生活の中で、赴任歴は通算21年になります(シンガポール5年、ドイツ16年)。1974年に故佐藤一策会長がデュッセルドルフに設立した輸出入代理店が始まりで、当初から

大手のドイツ企業(車載や制御機器)との取引を主に行い欧州全域へはんだ材料を供給しています。欧州での商売は、まず「ノックするドアはどこ？」から始まり、通い詰めながら試作品を提案し、技術会議も毎年続けて、やっと注文を頂ける感じで、信頼構築に時間をかけます。お客様が困っている時こそ、問題を解決することが大切です。

グローバル市場では、10年、20年後を見据えた人材育成が鍵です。言葉の習得、国際経験の蓄積、特に市場ごとの商売の仕方、商習慣などを体得しなければなりません。また日本において、現地法人の従業員への研修も必要になってきます。その場合は、英語を使用しなければなりません。働きやすく働き甲斐のある仕組みづくり、統括部署の設置、駐在員のやる気を高める工夫を通じて、グローバル化が実現できると考えています。



アジアの付加価値を増強



アジア地域：
北村 忠司 社長

1989年、当時すでに東南アジア諸国に進出された日系企業のお客様のご要望に応えるべく、スズの主要産地であるマレーシアに拠点を置き、はんだ

製品の供給・サービスを開始しました。スズは、はんだの主原料です。その後、1995年にフィリピン、2003年にタイに現地法人を設立し、より多くのお客様に密着したサービスを提供しています。2010年以降は「チャイナプラス1」として東南アジアが再認識され、インドネシアでは海外投資が増えています。そこで2014年、お客様にきめ細かいサービスやデリバリーを提供するため、インドネシアに現地法人を開設しました。今後、この東南アジア地域のさらなる経済発展に伴うニーズの多様化に応えるべく、製造、販売、サービス体制を整備し、お客様に喜んでいただけるよう対応いたします。



そして「ラボ」を設立



秋田 智
ゼネラルマネージャー
(2014年帰任)

入社後、6年間はんたペーストの開発業務に携わった後、アメリカで自分を試してみたいとの希望が叶い、2001年から2014年まで(サンノゼ9年、シカゴ4年)赴任しました。担当は、シリコンバレーのサンノゼ工場内にラボを設立する業務です。北米では鉛フリーはんたの評価活動が本格的に始まった時期でもあり、ラボを最大限に活用することにより、新規顧客の開拓につなげることができました。私は、創造的で革新的なイノベーションを生み出すシリコンバレーにて、幅広い分野でのグローバル企業と接することで、グローバルに、そして多角的に物事を考える事の大切さを学びました。



現地化 そして南米へ



島村 将人 社長

北米とメキシコを中心としたビジネスを南米まで広げる目的で、2014年からシリコンバレーに赴任しました。自動車産業が活況なメキシコでは、従業員の雇用とローカルサポートの強化を図り、材料も装置も高品質で高信頼性を必要とするお客様の事業を確実にご支援できる仕組みを構築しています。また、モバイル製品とウェアラブル製品の活況により、半導体の微小化と温度変化に対する高信頼性を求めた高付加価値製品の要求が高まっています。そのため、主要なお客様との日々の電話会議を徹底することで、日本の開発陣がお客様のニーズに合った製品を迅速に開発できるように支援体制を整えました。現在、2016年中の稼働を目指し、ヘッドオフィスと工場を統合した自社ビルを準備中です。ハイテク企業が結集しているシリコンバレーで、地域社会と環境に配慮した魅力的な工場とヘッドオフィスの設立を目指します。



ニッポン品質を出前します



佐久間 健 統轄部長

世界のどこで調達しても、日本の品質を維持した最良な製品をお届けできるよう、ブランドの維持向上に努めることが私の仕事です。お客様の海外進出

状況を把握し、どの製造拠点对応すべきかを明確にする、国内外の営業部門と情報共有できるよう支援する、こうしたことが重要な役割と考えています。また世界同一品質を維持するために、国内同様「製造移管手続き」を徹底しています。製造方法、試験方法、合否判定基準など統一文書で指示し、世界中の拠点で教育を実施、その実績を定期監査で確認しPDCAを回しています。

製品に含有する化学物質を、どこの国でも安心して製品を使っていただけよう、各国の法律や規制に順守できる強固な組織体制を構築していきます。



我々の設備を待っている



名内 孝 部長
(2011年帰任)

2003年から米国子会社に8年間赴任しました。担当は、鉛フリーはんた材料に必要な鉛フリー対応の装置事業の責任者として営業からサービスまでです。当初4年間はシリコンバレーを拠点とし、後半は、多くの日系企業が活躍しているメキシコへのアクセスを考え、サンディエゴに拠点を移しました。日本での装置の販売実績が増えるにつれて、メキシコでの販売台数も順調に増え、買い替え需要が一巡したところで、米系のOEMやEMS企業への営業活動を展開しています。その結果、西海岸の拠点だけではなく、はんた材料の工場として立ち上げたシカゴ工場にサービスとして実験機を設置し、保守部品の在庫を確保することでサービス体制を整えました。私は、日本での装置の開発状況のみならず、お客様の「声」をよく聞き、他の海外拠点とも頻繁に情報交換を行いながら、自ら積極的に行動する事が大切であることを学びました。

海外で活躍する社員数

研修制度利用者数

12名

(2009年4月～
2014年11月)

海外拠点代表者数

39名

海外赴任経験者数

139名

※現在赴任中50名
(2014年12月1日現在)

世界の生産工場で…

中国に進出する日系企業を支援する目的で、1995年以降5製造拠点8販売拠点を設立しています。テクニカルセンターからの技術スタッフを常駐させ、日本品質を短納期に提供できる良質なサプライチェーンの構築と、お客様の声を直接聞き、新製品の開発を加速させています。

『世界の生産工場：中国』には、欧米企業も多く進出しており、同様の支援も重要と考えています。欧米の販売拠点と連携を密にし、グローバルなサプライチェーンを構築し、ファンを増やしていきたいと思ひます。

また、中国企業の躍進も目覚ましく、有用で最良な製品の提供が社会貢献と考え、現地スタッフの育成と地域との現地化に努めています。2014年には

長期にわたる人材育成と現地化を目指して上海千寿企業管理コンサルティング有限公司を設立し、教育と人事制度を再構築しています。

SMICグループとしての連携をさらに強化して、常に変化する顧客ニーズに合致した製品・サービスをタイムリーに提供し、お客様に充分満足していただける本格的なグローバル企業を目指します。



中国事業担当：

長谷川 友秀 取締役



|| 特集 ||

女性の活躍する企業

千住金属工業では、世界中で全従業員の36%に及ぶ839名の女性社員が生き生きと活躍しています。一方で国内において、女性社員の活躍がこれから期待されています。2014年から経営職に女性役員を迎え、管理職に将来なれる女性社員の育成も始めました。また、育児休暇制度や介護休暇制度並びに嘱託制度を通じて雇用確保の措置を講じており、これらの制度を利用した女性社員を特集しました。

Voice of Female Employers

佐藤 有香取締役

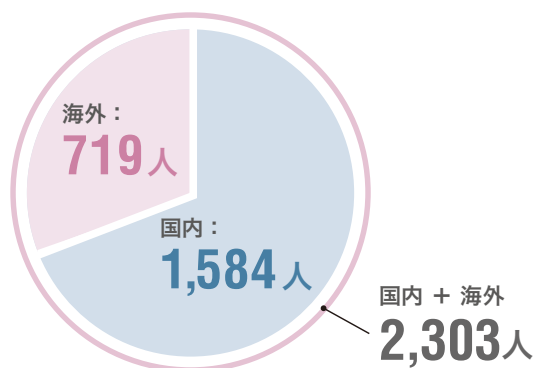


「切磋琢磨して生きたい」

共働きや少子化の流れの中、千住金属工業も社員研修などで男女の差を無くし、共に活躍できる体制を早急に整えなければなりません。但し「女性が活躍する企業」とは結果であり、目標にしてはいけません。全社員が中長期の目標と目的意識を持ち、上司・同僚と共有しながら切磋琢磨していく企業であって欲しい。やりがいのある仕事をすれば良く、経営やマネジメントにやりがいを見出す人は、それに向かって努力し、時間に追われる出荷作業にやりがいを感じる人は、その為のスキルと知識を集める努力をすればよいでしょう。すべての仕事にノウハウが必要であり、何も考えずに済む仕事はありません。

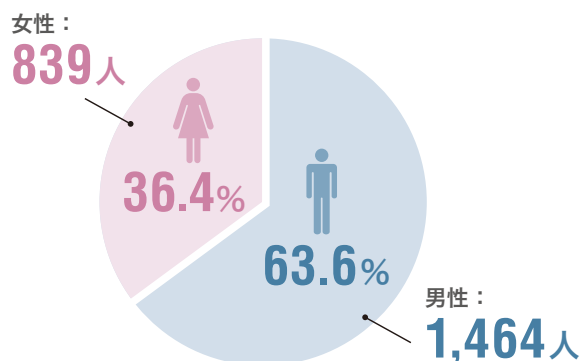
また、生きていくという事は、ある意味「人との乖離を埋める作業」であり、デジタル化が進む中、職場ではお客様とはもちろん、同僚、上司、部下間での「乖離を埋める」作業のできる社員がどれだけいるかが、企業の成長にとっても重要だと思います。佐藤の家（創業家）に生まれ、育ててもらった事に感謝し、自分の置かれた立場を受け入れ、次の世代に会社を渡す時に、その時代に見合ったマーケットリーダーであり続ける会社であるために、今何が必要かを考えて毎日を過ごしています。さらに言えば、社員の皆様のご子息に就職口として「千住金属工業は良いぞ」と言ってもらえる企業でありたい。

■全従業員の国内海外人数比率



2014年10月1日現在

■全従業員の男女比率



※小数点第2位以下は切り捨て。

「大家族の一員として」

私は仕事を通して、「自立した人間の魅力」を身につけることができていると感じています。家庭という狭い生活空間から飛び出し、視野を広げ、個性の良いところが表現でき、自信を持つことができるようになりました。上司から信頼をいただき、会社の経営管理にかかわる仕事を担当できることは、本当に光栄です。仕事に問題の一つ一つを解決し、上司や同僚から認めていただいた時には、「特別な達成感」を感じます。

また、自分のチームを管理するにあたり、仕事には常にオープンな人間関係を心がけています。問題があれば、チーム全員で話し合い、互いに学ぶことで他人の長所を取り入れたり自分の短所を補うようにしています。ただ単なる結果だけではなく、チームの仲間との交流を通じて、仕事に関する考え方を伝えたいと思っています。チームの仲間の成長を見る度に、本当に満足しています。

そして、私にとって家庭と仕事は両方とも同じように大切です。仕事は丁寧に計画し、家に持ち帰らないようにすることが、家庭とのバランスを保つための秘訣です。健康管理のため、毎週運動することと、仕事と休みの時間を合理的に振り分ける努力をしています。最後に勉強についてですが、より仕事に生かすために会社が企画する専門知識に関する研修を受けています。また、それとは別に休みの時間を利用して、自分が興味のある未知の分野の勉強に参加することもあります。このように私は、千住金属工業という大家族の一員として働けることに、この上ない誇りと幸せを感じています！



Voice of Female Employees

周 荷青統括部長



「後押しと気配り」

上司、部下、家族から強力な支援をいただいていることが私の強みです。上司の心強いサポートで、自信を持って仕事を遂行し、柔軟に対応でき、権限を与えられてやりがいを感じています。どの職場にも緊張やストレスを感じるときがありますが、チームワークのよいカスタマー・サプライチェーン・マネジメント・グループの部下に恵まれ、緊張感を乗り越えて仕事ができます。

また家族の支えのおかげで、家庭の心配をせずに仕事に集中できます。仕事以外では、家族と過ごす時間を楽しんでいます。同僚や家族の支援という強い援護がなければ、仕事をうまく遂行することはかなり難しくなると思います。私自身がサポートの力と必要性を理解しているので、チームをできる限りサポートするように心掛けています。

私の部下は全て女性社員です。全員が自信を持って仕事に励めるように、より良い職場環境を築くことが重点目標の一つです。究極の目標は、チームのメンバーを千住金属工業の次世代の女性戦力に育てることです。

このコミットメントによって、一人一人がさらなる重責を担えるようになり、個人として成功するだけでなく、会社の将来の発展と成功に寄与できるように実力を身につけて欲しいと願っています。



Voice of Female Employees

Mari Kuhn

シニアマネージャー





Voice of Female Employees

Elisabeth Kaplan
マネージャー



「言語の知識が 相互理解に繋がる」

千住金属工業で15年以上営業職として勤務しています。幸いにして、日・英・独すべての国の語学ができるため、ヨーロッパの多くの国々のお客様と取引を行っています。そこで実感したのは各国の固有の文化を認め合いながら、言語の知識、特に英語を通じてのコミュニケーション能力の重要性です。言語の知識がなければ、現代のグローバル企業で業務を遂行することはほとんど不可能で、グローバル化、国際化の進展に伴い、相互理解のためにますます重要になるでしょう。私が日本について学習し、日本語を習得したことが、社内の、そしてお客様との意思疎通を促進するうえで役立っていることをうれしく思っています。趣味は、推理小説などの読書とハイキングです。

しなやかに現場を支える、女性リーダー達

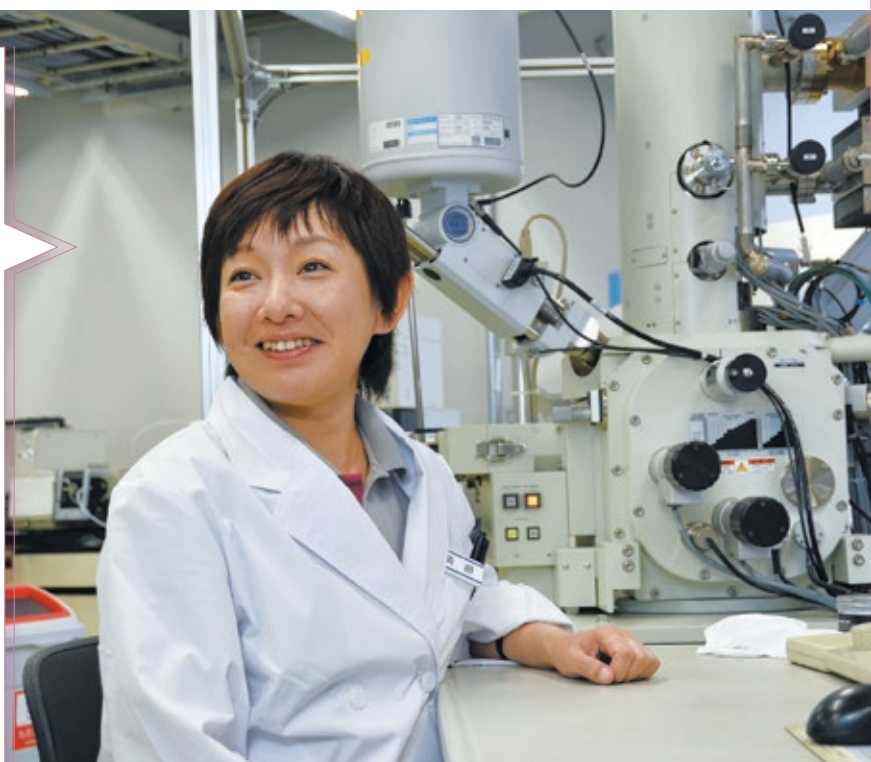
「グローバルな 視点を磨くために」

ハンダテクニカルセンターで、新製品の研究開発を行っています。女性の研究部員も多く在籍し、明るく活気のある職場です。お客様への技術サポートも重要な業務なので、お客様のニーズに合った製品を迅速に立ち上げる為に、国内外のお客様を訪問し、技術打ち合わせを行う機会も数多くあります。

数年前から部内のチームリーダーと言う立場を任せられ、開発だけでなく、後輩の育成にも取り組んでいます。また、2014年11月からは、中国深圳地区で、6ヶ月の研修の機会をいただきました。

女性社員の長期研修は、今回が初めてですが、今後はますます増えていくと思います。男性社員と切磋琢磨する事も必要ですが、女性特有の感性を生かして、自分にしかできない仕事を見つけて行く事が重要だと感じています。

研修を通して、グローバルな視点を身につけ、今後の仕事に役立てたいと考えています。今までは旅行が趣味なので、休暇を利用し、東南アジアやアフリカなど色々な国に行ってきました。今回の研修では、仕事だけでなく、中国の生活文化を学ぶ事も楽しみにしています。



Voice of Female Employees

岡田 咲枝 研究員





「時差をのり超えて」

私は、女性に重要な役割を任せる環境にある、海外営業部に務めています。海外営業部は、語学が堪能な若い世代が多い部署で、海外に拠点のある全ての国々からの要請に総勢35名で対応しています。

私自身はタイ語が得意なのでタイの担当です。タイの場合、時差が2時間なので、朝8時から11時の間に決裁書類や受注チェックリストの確認などの業務を熟すように努め、日本時間の11時から始業するタイの為に意図的に時間を割くように1日の業務配分を考えて仕事をしています。

立場上、部下に無理な仕事を依頼することも多く、相手に不快な思いをさせない、本人の適性に依拠して仕事を願う、などの判断を即時に行わねばなりません。このような時は、チームワークを乱さないような言い回しや、やわらかい表現でお願いできるよう、普段から「課内外での交流関係」「仕事の癖」「上司から指摘を受ける傾向」などを、無意識に観察してきた結果が今では非常に役に立っています。部下の行動や思いをできるだけ把握できるよう、いつも努力しています。

また課内のミーティングでも、女性が堂々と発言しやすい雰囲気づくりを心掛けています。責任が重い立場ですが、ベリーグダンスやカラオケ、化粧品集めでストレスを発散させています。



「子育て期の管理職として」

品質監査室長として、はんだ部門・軸受部門の品質・環境ISO関係を統轄して管理しています。家庭では3人の子供がおり、子育てをしながら働いています。

管理職は、男女を問わず責任が重いですが権限も与えられているため、ある程度自分の企画で仕事を進めることができ、自由度が高く楽しさも大きいと思います。私は、このような満足感や仕事の楽しさを、ぜひ多くの女性にも味わってもらいたいと考えています。「子育て期」にある女性管理職として、私は家庭と仕事のバランスを上手にとるように、一日を自分の中では家庭50%、仕事50%になるよう心掛けています。妊娠や出産は女性にしかできませんし、どうしても男性よりは「家族との縛り」を大きく受けやすく、家事や育児を担当する割合なども多くなりがちです。ただ、こうした家族との縛りを受けやすい時期は、長い仕事人生の中でも一時期なので、会社の制度を上手に利用するなど、周囲の協力を得て乗り越えていけば良いのではないのでしょうか。

仕事上では、重要案件を控えていても、子供の急病などで突然早退や休暇を取得せねばならない時もありますが、そういった際には、部下に業務を安心して任せられるように日頃から育成を心掛けています。その分、常日頃から部下への感謝の気持ちは忘れないようにしています。

疲れたときには、リフレッシュとして、ゆっくりスキンケアの時間をとるなど、息抜きの時間を作るようにしています。また、難しい仕事にチャレンジして達成した時など「頑張って良かったな」と満足感を味わった場合は、自分へのご褒美を買うなどして楽しみも忘れないようにしています。





Voice of Female Employees

山田 千秋さん



▼ダイバーシティ勉強会



さまざまな立場で働く社員の違いを受け入れ、活かす目的で本社と栃木事業所が合同で始めました。ワークライフバランスを保つ上で、仕事を続けていく上での気がかり、大変なこと、工夫していることなどを協議しています。

「顔の見えない相手と」

入社5年目になりますが、海外とのやり取りが多い海外営業部に所属し、毎日顔の見えない相手とメールや電話で営業活動をしています。顔の見えない相手だからこそ、メールでの表現や言葉使いでは女性ならではの細心の気を配り、常にさわやかな対応を心掛けています。入社した時の国際部門の営業活動は男性が中心でしたが、今では多くの女性が営業担当として活躍しており、「女性が活躍する」とあえて謳う必要がない企業になるうとしている姿を肌で感じています。産休・育休を経て職場復帰される経験豊富な先輩方が多くいるので、後輩としてとても安心感があり、心強く思っています。また復職後だからといって、重要な仕事を任せられないという事はなくキャリアを諦めずにすみませう。育児中の時短勤務制度というとても優しい環境が、子育てと仕事の両立を可能とし、ご家族も安心なのではないでしょうか。担当先が欧米のときは、休暇の違いや時差が大きく、日本の勤務体系では対応できないことも多々ありますが、部門としてフレキシブルな対応とバックアップ体制で乗り切っており、急な休暇や長期休暇を取る人がいても問題を起こしません。私を含め旅行好きな女性社員の多い職場でも、お互いカバーしながらみんながしっかり長期有給休暇を取って、人生を楽しんでいます。

仕事も人生も自分らしく、 生き生きと働ける職場

「仕事も家庭も諦めない」

高校卒業後から仕事を始め、次女の誕生に喜ぶ間もなく、母親らしいことを放棄している自分に気がきました。幸運にもそんな時に千住金属イタリアにパートタイムとして2004年に入社、仕事を諦めず家庭との両立を手に入れることができました。

職場は若く、活発で、協力的な同僚がいて、Working Motherには欠かせない、急な欠勤時の対応がしっかりしています。「誰もが仕事の全体を把握し、誰かが休みのときは同僚がカバーする」仕組みのおかげで安心して仕事ができ、感謝しています。

子供たちが習い事もなく、甘えたい時は彼らへの時間を優先します。また出勤前に昼食を作り、帰宅した子供たちが温めて食べられるようにも準備します。私は「のめりこむ」タイプで、仕事と家庭の時間を両立させようとすると、つい自分の自由時間を失っていました。仕事と家庭を両立する上では両親が子供の面倒をみてくれ、その上夫はフルタイムにもかかわらず、毎晩夕食の準備をし、掃除も手伝ってくれます。

教会でのコーラスへ毎週参加したり、子供をスポーツクラブへ送った合間に他の母親達とカフェを楽しんでストレスを解消しています。さらに、夫と散歩やサイクリングも楽しんでいます。以前は本当に必要なときしかできなかったのですが、最近では外見や美容にも気を遣うようになり、美容院へ通うようになりました。

【解説】千住金属イタリアは、ヴィチエンツァ(Vicenza)は、北イタリアのベネト州(州都はベニス)に属し、人口は約11万人。ミラノから東へ200キロ、ベニスから西へ70キロに位置します。ルネサンス期の優れた建築家アンドレア・パッラーディオが手がけた美しい町並みで知られ、「パッラーディオの街」と称され、その市街の一部は、世界遺産に登録されています。



Voice of Female Employees

Mariagrazia
Perettiさん





Voice of Female Employees

Hanita Samahさん 

「多民族・多宗教の中で」

私は、日本とマレーシア間の輸出入業務と機械部品・電気部品や文房具の購買業務を行っており、入社20年目を迎えますが、充実した快適な仕事人生を送ってきました。マレーシアは、マレー人・中国人・インド人の多民族国家で、宗教もイスラム教・仏教・キリスト教と多岐にわたりますが、多様性豊かな国や職場に誇りを感じると共に、同僚たちとは兄弟や姉妹のように楽しく仕事をしています。医療給付や保険、毎年企画される夕食会や社内旅行など、全従業員を対象とした優れた福利厚生制度の恩恵を受けており、毎月の誕生祝賀会では全従業員が美味しいパースデーケーキと食事でお祝いをします。ボウリングやバドミントン大会を毎年開催し健康にも留意してくれ、従業員にきめ細かな支援と配慮をしてくださる会社に変感謝しています。私は、定年まで千住金属工業で働き続けることを楽しみにしています。

「我が子の一番の先生になりたい」

昨年、健康で可愛い男児の母になりました。日々成長する我が子を見て、毎日が幸せと喜びに輝いています。産休が終わる前日、ビル・ゲイツの母親の新聞記事を読みました。彼女は毎日いくつもの仕事を掛け持ちしながら、彼と妹を育てたそうです。また、そのことで、愚痴を言うことは一度もなかったそうです。仕事を大事にする姿勢こそ彼女が伝えたかった貴重な資質だったと気づき、私が努力することで子供にとって一番の先生になりたいと思いました。それでも当初は慣れず、夜は子供の世話で何度も起こされ、昼間の仕事も激務でした。毎日子どもをあやして眠らせた後は、本当にくたくたでした。そこで、少しずつ自分の時間をとるようにして、事前に計画を考え、作業効率を上げ、家庭と仕事を管理する術を体得しました。

母になること以上に「難しい」ことはないと思った今は、仕事上の問題に直面しても、常に積極的な姿勢で対応できます。新しい生活リズムにも慣れ、精神的にもずっと落ち着き、自分に自信が持てるようになりました。この小さな命の成育に以前よりもずっと重い責任を感じ、仕事もより真剣に注意深く行うようになりました。母になると皆一層注意深くなるのは、母性本能によるものでしょう。子供は母親が一生懸命仕事をするための原動力であり、仕事に励む母親は子供にとって一番のお手本だと思います。

Voice of Female Employees

王 海燕さん 



Voice of Female Employees

Silvia Mascoloさん 

「夫と祖父母とハイテクのおかげで」

出産後の数ヶ月間は育児だけで手一杯でしたが、母親として子供へ愛情を注ぐ幸せ以外に、仕事に専念したり、息抜きをすることも必要です。家庭と仕事の両立は困難ですが、両方にベストを尽くすよう心掛けています。私は仕事が好きで、お客様に、いつも全力で対応しています。私がオフィスにいないときは、同僚が緊急事態に対応してくれます。パートタイムとして12年以上も仕事を続けられる機会をいただき感謝しています。祖父母のおかげで子供たちを預けることができ、数日間のイタリア国内外の出張も受け入れてくれます。ハイテクのおかげで出張中もスカイプで娘たちと連絡をとることができ、子供たちはそばにいない母親がどこにいるのかを確認することで、安心してくれます。

仕事と育児と家事に集中した一日の終わりは、部屋を片付けて翌日の準備をし、疲れていますが、友人に電話したり、雑誌や本を読むことで気晴らしをするようにしています。朝は子供たちより1時間早く起床し、自分のケアに充て、服を選び、良い気分これから始まる一日に立ち向かいます。アイメイクなしでは外出しません。ベニス大学にて日本語を専攻。趣味は読書、映画鑑賞、観劇、パッチワーク。



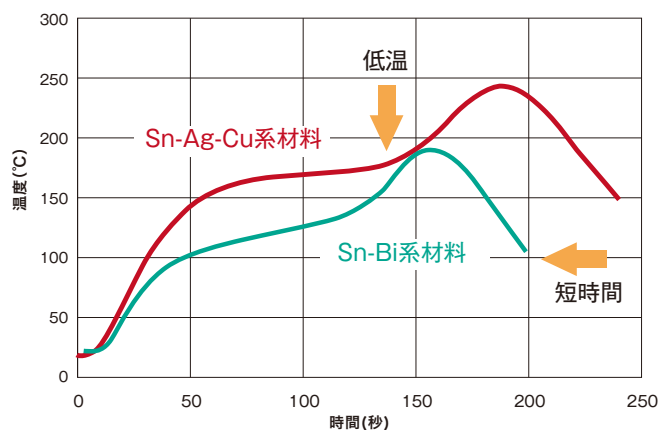
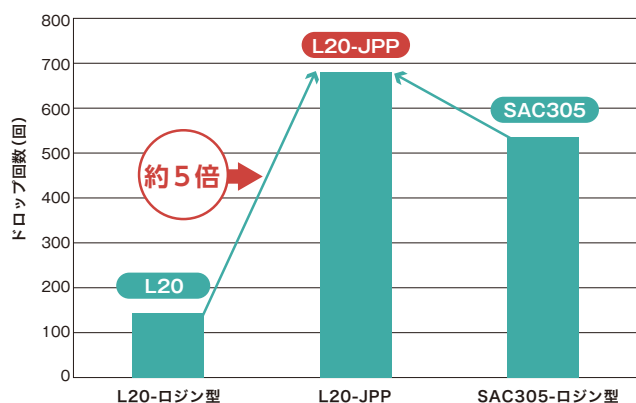
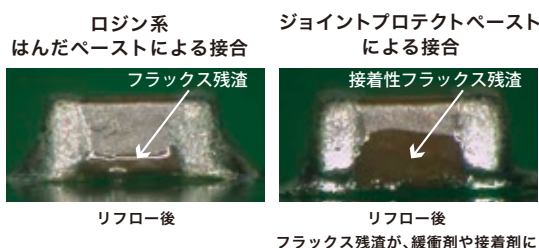
環境に配慮した製品で社会貢献

欧州連合のRoHS 指令を発端に、鉛を含まないはんだ材料が使用されて有害な物質を排除しましたが、融点上昇による「はんだ付け温度の上昇」と、「希少金属の使用」という二つの環境課題を生みました。千住金属工業は、Sn-Bi系合金の開発と、独自の加工技術と伸線技術を駆使して、従来の Sn-Pb はんだよりも低温ではんだ付けできる製品を開発、また、高度な技術で希少な銀の不使用でも信頼性の高い合金を開発して二つの環境課題を解決、高度な環境配慮型製品で社会に貢献しています。

省エネ実装で社会に貢献

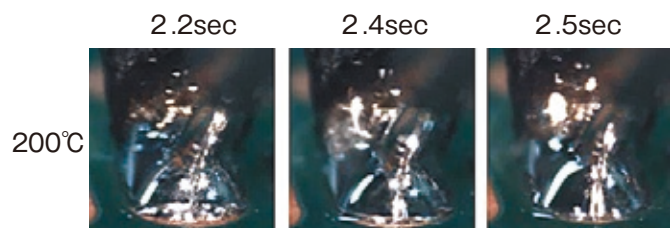
鉛フリー化で、融点上昇に伴うリフロー温度の上昇と、弱耐熱部品を考慮したプリフィート時間の長時間プロファイルが、はんだ付け時のエネルギー消費量を増加させ、環境に影響を与える鉛は排除できましたが、気候変動問題に起因する新たな環境課題を生みました。千住金属工業は、希少金属の銀を使用しない141℃と融点の低いSn-Bi系はんだ材料を開発し、低温短時間実装を実現、さらにSn-Bi系の課題である耐落下衝撃性と耐熱疲労性をフラックス残渣が緩衝剤や接着剤となるJPPシリーズを開発し、リフローではんだ付けの課題を解決しました。また、フラックス残渣は洗浄不要なため、大気への化学物質の放出もありません。

JPPの開発で、耐落下衝撃性と耐熱疲労性を向上



Sn-Bi系はんだは、硬くて脆い特性からやに入りはんだに加工することはできませんでしたが、千住金属工業は、長年培ってきた独自の技術を駆使して業界初となるやに入りはんだLEOを開発し、豊富なラインナップで低温実装を推進させ、省エネ実装で社会に貢献しています。

業界初、基板温度200℃での、はんだ付けを実現

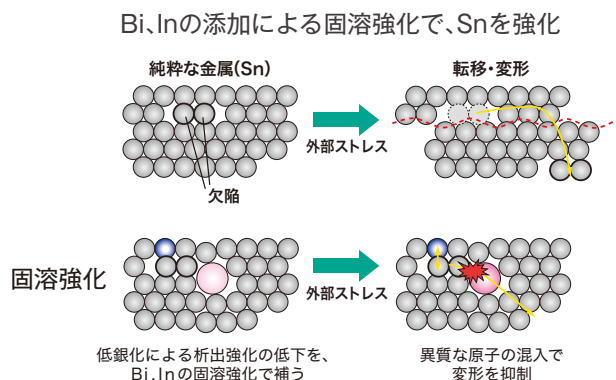


希少金属を使わない実装で社会に貢献

高価で希少な銀は、金属間化合物を3次元ネットワーク状に析出させることで耐熱疲労特性を高めていますが、千住金属工業は、他の元素で同様な効果を得ました。さらにSnに固溶する元素を添加する固溶強化との併用で、銀を一切使用しない低価格な信頼性の高い合金M773を開発、資源の有効利用で社会に貢献しています。



低銀化による析出強化の減少を、固溶強化で補う

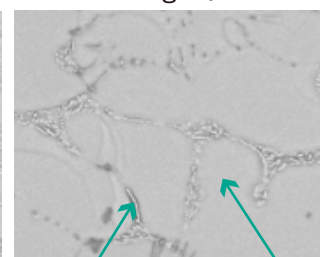
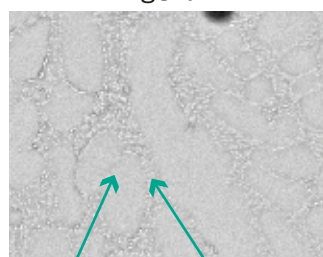


析出強化

低銀化で金属間化合物のネットワーク層が少なくなっているが、Sn中にBiとInが固溶している

Ag3%

Ag1%



Sn 金属間化合物 Ag_3Sn , Cu_6Sn_5 金属間化合物 Ag_3Sn , Cu_6Sn_5 Sn (Bi, In固溶)

リンとゲルマニウムの複合添加でドロスの発生を、約70%削減



リンとゲルマニウム含有なし

M24AP/M24MT

ディデュースで社会に貢献

千住金属工業は、銀を一切使用せずリンとゲルマニウムを複合添加したM24APとM24MTを開発し、フローはんだ付け時に発生するドロス(廃棄物)を約70%削減して、3R活動で最も効果の高い廃棄物を発生させないディデュースと低価格化で社会に貢献しています。ドロスは再利用できますが、溶解製錬などでエネルギーを消費するので省エネにも貢献しています。



インテルコーポレーションからSCQI賞を受賞

千住金属工業株式会社は2014年4月10日、インテル コーポレーションからサプライヤー・コンテニューアス・クオリティー・インプルーブメント(SCQI)賞を受賞しました。2013年度は8社が受賞しています。今回の受賞は、インテルの目標に対し卓越した品質と成績を達成したことによるものです。SCQI賞は、優れた成績を収めた供給企業に贈られる最も栄誉ある賞です。千住金属工業はインテルの成功に欠かせないはんだ材料(はんだボール、フラックス、ペースト、棒、線)を供給しています。

第1～第3世代の社会貢献

1938年4月、株式会社千住鉛工場として創業以来、77年の歩みを振りかえると、有用な数多くの製品を開発して世に送り出し、産業界のニーズに応えてきました。これからも、新たな社会のニーズに応えることで、社会に貢献してまいります。

第1世代 高度成長Sn63はんだ



初期のやに入りはんだ。
テレビ・ラジオ継線用スパークルハンダとして生産が開始されました。



はんだは、紀元前から続く約5000年の歴史がありますが、その中で主成分となってきたのは、スズと鉛からなるSn-Pb系はんだです。1955年に日本ではじめてやに入りはんだを生産開始しました。やに入りはんだとは、糸状のはんだの中央部にやに（フラックス）が入っている製品です。このやに入りはんだを「スパークルハンダ」として日本ではじめて製品化し、ラジオやテレビの配線用として日本のエレクトロニクス産業の発展に大きく寄与しました。また1956年には、はんだに関して初のJIS・日本工業規格の標示許可をいただき、昭和40年代の高度経済成長期をサポートいたしました。

また、1990年代には、銀核はんだボールの技術を継承したソルダボールが、部品底面に外部電極として採用され、BGA (Ball Grid Array) という最先端技術として注目を浴び、高密度実装の立役者になりました。さらに、微小なソルダボールの開発・製品化が、ボールボンディングという新しい接合技術を生み、CSP (Chip Size Package) と呼ばれる超微小部品で、最先端の機器を誕生させています。こうして、千住金属工業は半導体パッケージングの発展に大きく寄与、これからも最先端接合技術を提供していきます。

第2世代 ECOソルダー



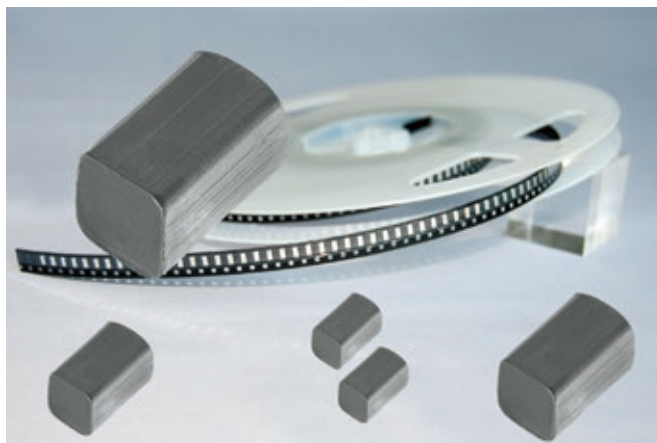
故 佐藤 一策 前会長
社長在任期間 昭和59年7月～平成20年6月
会長在任期間 平成20年6月～平成24年9月

1990年代、鉛による地下水の汚染が環境問題となり、鉛の全廃を望む声が高まっていました。前会長であった佐藤一策(当時社長)は、若い時代に赴任したドイツで、産業発展に伴う酸性雨による環境汚染の影響で、緑豊かな“黒い森”と呼ばれたシュヴァルツヴァルトの木が枯れる姿を目のあたりにしました。この経験により、千住金属工業は重金属を扱う企業として、地域保護並びに業界保護のため、環境問題に対して危機感を高めなければならないとの強い意志を持つにいたりしました。

平成16年には欧州で河川や地下水の汚染の拡散を防止する措置として、電子機器の生産に不可欠の材料であるはんだも主要材料である鉛を使用しない大きな変革をせまられました。千住金属工業は、「M705」という商品名で世界に先駆けて、信頼性の高いSn-Cu-Ag系鉛フリーはんだを開発し特許を取得、これを公開することで世界の標準的な材料として鉛フリー化が促進され、地球の環境保全に大きな貢献を果たしました。千住金属工業は、これを契機に「世界的に飛躍する企業」へと発展しました。

「M705」は、日本の大手TVメーカーが参画した国家プロジェクトの推奨材料となり、普及のきっかけとなりました。





千住金属工業が世界に先駆けて開発した、鉛フリーはんだは一般的に使用されてから10年以上が経過しました。今や、目的や用途に合わせて材料を選択する時代となっています。低銀/低価格化・車載用途/高信頼性化・モバイル機器/高密度実装化・低温実装/省エネ化・ハロゲンフリー/環境調和型製品などの要求に合わせて、材料を選択いただけるように幅広い製品を取り揃えています。

このほか、はんだ付け工程での炭酸ガスなどのGHG(グリーン・ハウス・ガス)排出抑制材料やはんだ付け装置を次々に開発し、カーボンフットプリント(炭素の足跡)などLCA(ライフ・サイクル・アセスメント)を意識した、本格的な環境配慮型製品の創出で社会に貢献し続けたいと考えています。

■チップソルダー

はんだ補充用ソルダブリフォーム「チップソルダー」は、表面実装用チップ部品と同じサイズに成型加工し、高速マウンターで基板に搭載できるようテーピング包装した製品です。ソルダペーストを印刷した、はんだ量が不足するランドに部品と共に搭載し、加熱することで、はんだが補充でき、信頼性の高い接合を実現します。また、補充修正工程も削減できます。フラックスコーティングしたタイプもラインナップ、チップソルダーだけでの実装も可能です。モバイル機器など高密度実装製品に最適です。



ASE社から 「ベスト・サプライヤー賞」を受賞

千住金属工業は、2014年3月7日にASE本社で開催されたASEグループ・ベスト・サプライヤー賞2013において、はんだボール部門のベスト・サプライヤー賞を唯一受賞しました。ASEグループとの研究開発での連携においては、いくつかの難題を解決し、作業効率も改善されたことと共に、継続的にコスト削減の提案及び入荷率の達成、さらに常に期待以上のサービスを提供しています。



黄綬褒章

千住金属工業 田口稔孫名誉所長

1992年(平成4年)春の褒章

昭和33年入社。長年ははんだに関する研究開発に従事し常に創意工夫を怠らず電子機器用ソルダペーストの考案改良を行い、高密度実装技術の向上をもたらした。日本の世界的優位性と家電機器の小型軽量化、高信頼性化等、産業界へ多大な功績を残しました。平成2年には、科学技術庁長官賞も受賞しています。

千住スプリンクラー 菊池 哲郎取締役

2014年(平成26年)秋の褒章

昭和41年に千住金属工業に入社後、昭和50年に千住スプリンクラーに転属。長年にわたり消防機器の製造販売業務や消防設備保守業務等に精励し、海外のコンシールドスプリンクラーから、外力に強い新型スプリンクラーヘッド、最先端を行く新機構の警報弁の開発に尽力し、平成17年に全国消防機器協会会長表彰、平成20年に消防庁長官表彰を受賞しています。

菊池哲郎
千住スプリンクラー
取締役・技術本部長

田口稔孫
千住金属工業
田口研究所 名誉所長

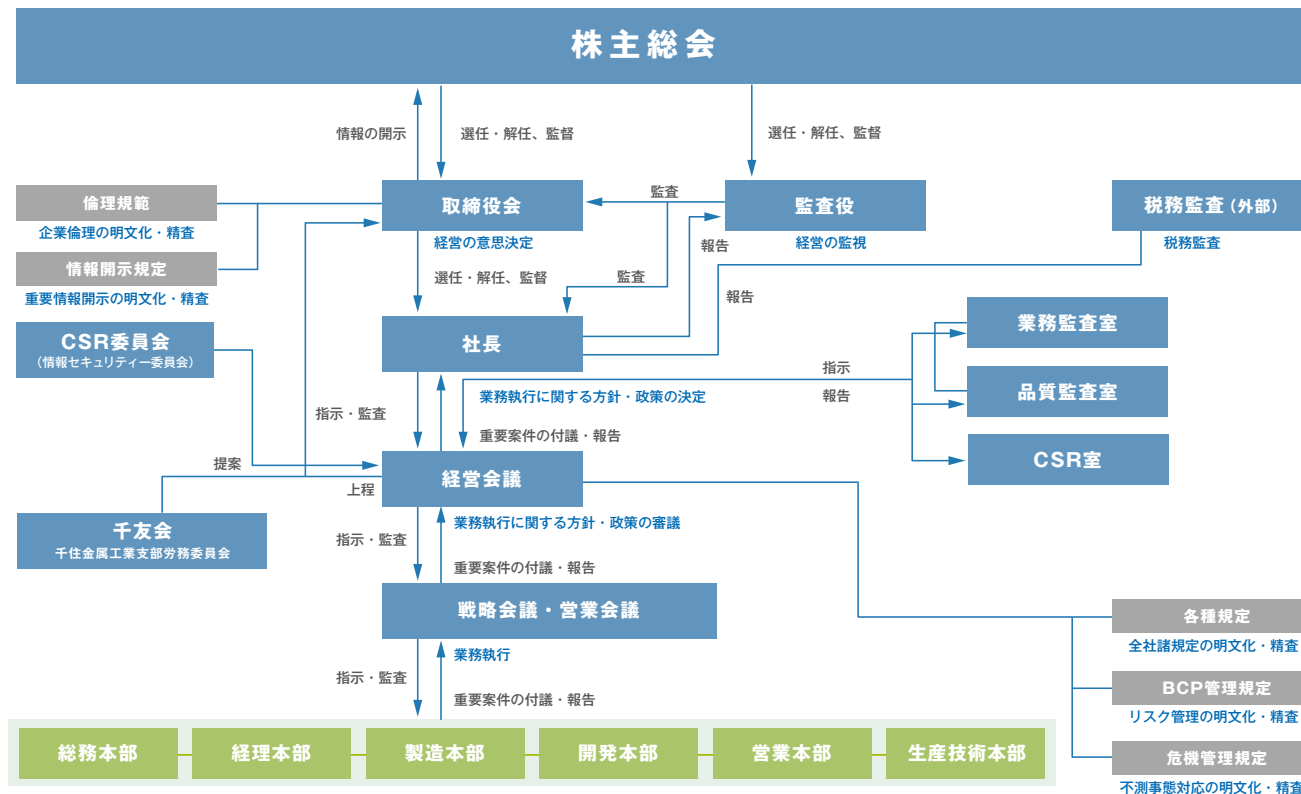
スプリンクラーヘッド

火災発生時に大量の散水で、自動的に消火を行うスプリンクラー。はんだの応用製品として、その火災を感知して散水するスプリンクラーヘッドの国産型式承認一号を取得したのが千住金属工業です。現在では、高層ビル、百貨店、病院、一般集合住宅など多くの場所に使用されており、国内シェア75%を誇ります。



ガバナンスと経営状態

千住金属工業は、法令にもとづく株主総会・取締役会に加え、社外監査役を含めた監査役や税務監査の配置とCSR委員会・経営会議・戦略会議の整備などにより、ガバナンスの強化に努めています。



取締役会

取締役9名と監査役2名(内、1名は社外監査役)で構成され、関係法令及び定款の定めるところに従い、千住金属工業経営管理の最高最終の意思決定機関として、法定事項を審議するとともに、会社業務執行上の重要な事項を決定若しくは承認します。

監査役

2名(内、1名は社外監査役)の監査役が選任されています。取締役の職務の執行を含む日常の経営活動の監査を行っています。監査役は、取締役会と経営会議に出席し、違法または著しく不当な決議がなされることを防止する責務を果たすと共に法令に準拠した活動を行っています。

経営会議

取締役、監査役、理事・副理事及び参事により構成し、取締役会の審議決定事項以外の業務執行に関する審議決定を行います。なお、取締役会が審議決定事項すべき業務執行に関する事項については、必要に応じ事前に経営会議にて検討し、取締役会に上程します。

不正防止

従業員就業規則にてコンプライアンスの重要性を明文化し、従業員はこれらの諸規則を誠実に守り、会社の秩序保持に努めています。又、千住金属工業の事業活動方針「公正取引・倫理」及びCSR実践目標の《倫理》においても、腐敗を防止するために贈賄の行為を禁じています。

経営状態

【会社概要】

千住金属工業株式会社 (SENJU METAL INDUSTRY CO., LTD.)
DUNS# 690663091
本社所在地
〒120-8555 東京都足立区千住橋戸町23 番地

【事業規模(グループ連結)】

従業員数： 2,303名(全体)、1,584名(国内)、719名(海外)
売上高： 72,763百万円(2013年4月1日～ 2014年3月31日)

【事業展開している国と拠点】

アジア	7ヶ国	マレーシア・タイ・フィリピン・韓国・中国・香港・台湾
ヨーロッパ	4ヶ国	イギリス・ドイツ・イタリア・チェコ
アメリカ	3ヶ国	アメリカ・メキシコ・ブラジル

国内主要納入先：300社 海外主要納入先：1,500社

【事業内容】

- ① 金属の溶解、合金、鋳造、展伸、加工品の製造・販売
- ② 金属の粉末及び軸受の製造・販売
- ③ はんだ付用溶剤並びに接着剤の製造・販売
- ④ はんだ付け装置の製造・販売
- ⑤ 消火装置部品の製造・販売
- ⑥ 前記に関連する機械設備の製造・販売

地域別拠点数	日本	アジア	ヨーロッパ	アメリカ
製造拠点	8	11	1	2
営業拠点	14	14	5	6

お客様と従業員の関わり

千住金属工業は、安心してお客様にご使用いただける製品の開発と提供を行っております。また、製品情報の正確で迅速な提供を目的に、営業担当部門・サービス担当部門によるお客様対応の他にも展示会・イベントを通じての最新情報の発信を心掛け、Webサイトにお客様相談窓口を開設しています。また、従業員のワークライフバランスに配慮した多様性の確保や労働安全衛生の徹底、並びに人材の育成にも力を入れています。

参考:社会に対する責任

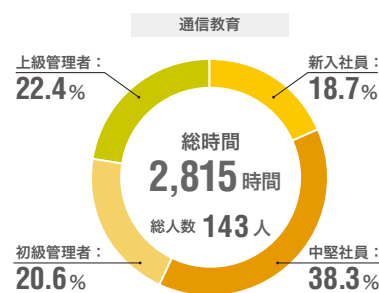
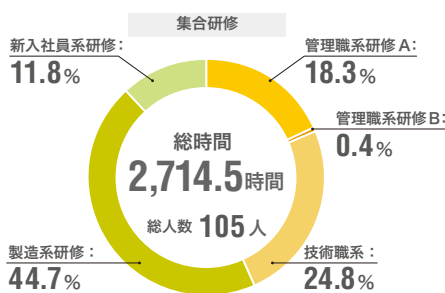
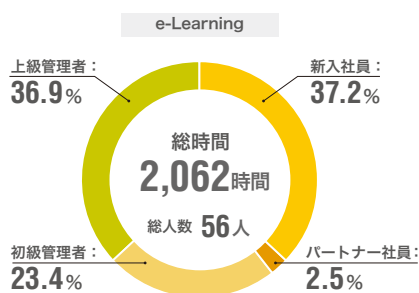
http://jp.senju.com/ja/csr/social_responsibility/



教育の必要性に全員参加で応える



千住金属工業の教育基本方針は、全従業員が絶えず新しい知識の向上に努め、広い視野に立って合理的な判断ができる人を養成することを目指しており、研修制度などの仕組みや施策を通じて従業員に成長の機会を公平に提供する責任があると認識しています。2014年度は、e-Learning・集合研修・通信教育を合わせて、304名の受講者が、延7,592時間受講し、製造に携わる社員は、現場での改善研修を受講し、研修で学んだことの報告会も開催しました。



苦情処理メカニズム

苦情の受付から処理までの方法は、お客様の苦情処理に関する手順書に定めています。具体的にはお客様への報告または社内報告が必要であると営業部門が判断した場合、担当者は実態調査結果、及び是正処置に関する事項を含む調査報告書を作成いたします。お客様への報告は、お客様から指示がある場合はそれに従い、特に指定がない場合は、苦情受け付けから48時間以内に状況調査結果と暫定対策を、1週間以内に原因調査結果と恒久対策を報告しています。

プロセス	市場(顧客)	営業部門	設計・開発部門	品質保証部門	製造部門	技術部門(生産技術部)	主な記録類	参考規定
品質改善				クレーム処理(原因追及・再発防止)⇒クレーム処理体系による			再発防止対策書(品共 08-01・様式 1)	是正処置規則
				SPC管理(品質解析・工程解析)			管理図等	統計的管理規則
				内部品質監査			内部品質監査結果報告書(品共 01-02・様式 2)	内部品質監査規則
				品質保証体制の改善(マネジメントレビュー)			マネジメントレビュー	品質マニュアル

寄付活動

千住金属工業グループでは国内・海外のそれぞれの拠点において、地域貢献、芸術振興、次世代育成を目的に、さまざまな活動に寄付などの経済的支援を行っています。

例えば、国境なき医師団などの医療福祉団体、学校や子供達を支援する基金への寄付活動、震災時の義捐金寄付などを行っています。

今後もこのような活動を通して社会に還元することで、経済的発展だけでなく、各地域の発展や次代の文化育成、豊かな社会の創造に寄与したいと考えています。

業務監査の結果

2014年4月から、CSRとBCPに加えて機密管理の4点の監査を実施しました。2015年度は、今年度の改善状況も踏まえ、国内の全部署と国内子会社は再度監査を実施する予定で、海外子会社については5拠点は監査を行う予定です。

監査対象	CSR	BCP	企業秘密管理	安全保障輸出	特定荷主
千住金属工業	49	14	14	25	10
国内子会社	7	2	0	4	3
海外子会社	1	1	0	0	0
合計	57	17	14	29	13

(単位: 監査件数)

本社	国境なき医師団 日本赤十字共同募金 東京都赤い羽根共同募金 結核予防会	6 団体
----	--	------

栃木事業所	真岡地区 THP 推進協議会	5 団体
関西事業所	兵庫県赤い羽根共同募金	5 団体
その他事業所		2 団体
グループ会社	日本赤十字社	2 0 団体
【国内】		合計 3 8 団体

上海	蘇州赤十字会	2 団体
北京	雲南地震	1 団体
マレーシア	事業所近隣の公立小学校	1 団体
フィリピン	PHIL. RED CROSS	3 団体
台湾	中華民國兒童福利聯盟文教基金會	6 団体
英国	Age UK	6 団体
【海外】		合計 1 9 団体

【世界】		合計 5 7 団体
------	--	-----------

紛争フリー完了宣言

千住金属工業は、調達しているスズ地金の全精錬所がCFS認定されたことを確認しております。

2015年2月20日



◀ 紛争鉱物対応調査の目的でペルーの精錬所に定期監査で訪問した藤原信一購買課長

2015年2月、取引先の精錬所が全てCFS認定されたことをご報告します。

2011年1月にEICC(電子業界のCSRアライアンス)に加盟し、世界中で開催されるEICC総会に出席し米国市場に上場しているお客様企業と密接な関係を構築してまいりました。

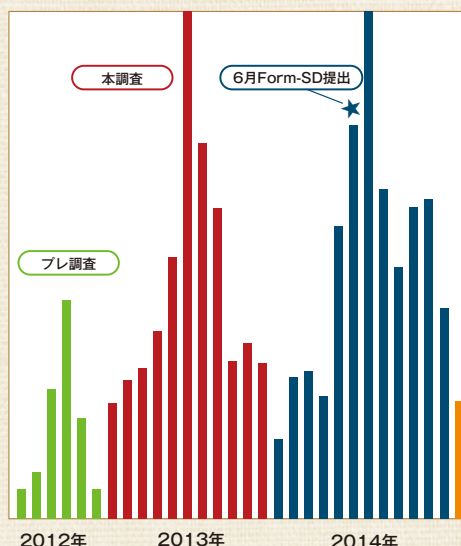
2014年からはCFSI(Conflict-Free Sourcing Initiative) 会員としてもCFS (Conflict-Free Smelter)紛争鉱物不使用精錬所プログラムへの参加と第三者認証の取得を精錬所に積極的に働きかけ、安心で安全な調達先であるとのこと満足をいただいております。

1年目の紛争鉱物開示期限であった2014年6月初め頃から、1,300社を超える企業が最終規則に基づく特別な開示様式(様式SD)を米国証券取引委員会へ提出し、そのうちの約25%の企業が、精錬所リストを開示いたしました。

SEC最終規則へのより厳密な対応を要求される2年目以降は、引き続き全ての調達先製錬所にCFSプログラムへの参加を呼びかけ、より安全で安心なサプライチェーンの確立を目指します。

お客様からの問合せ専用メールアドレスの紹介
conflictfree@senju.com

2012年からの世界中のお客様からの紛争鉱物調査依頼件数の推移



3年間で、約4,000件の調査依頼(月平均130件)がありました。本調査のピーク時には、国内外のお客様から2倍の調査依頼があり、公式な最新テンプレートで回答し、安心で安全な調達先であるとのこと満足をいただいております。



従業員や地域社会との最良の関わり

会社の繁栄・従業員の幸福・社会への奉仕の三者の一致を求めて

千住金属工業は、事業活動を展開する地域社会に貢献するため、地域に根差した従業員参加型の社会貢献活動や寄付活動に取り組んでいます。社会貢献に取り組むことは、従業員の誇りであり、ボランティア活動を通じて得られた人との出会いや体験によって、従業員が生き生きとした人生を送れると確信しています。今後も地域社会の構成員として、その発展に寄与する様々な活動を行っていきます。

国内清掃活動

千住金属工業グループでは、事業活動方針で掲げる社会貢献の一つとして地域清掃活動に積極的に取り組んでおり、2014年度は全体で延べ327名が清掃活動を実施しております。



千住金属工業:本社

10月から毎月、通勤経路となる本社と千住大橋駅前間の歩道を清掃しています。足立区の清掃美化活動実施団体としても認定されました。

参加者の声

- 吸殻が多いのには心が痛くなり、改めてポイ捨てを絶対にしないと誓います(営業・平山)
- お年寄に「綺麗にしてくれてありがとう」と言われ、嬉しかった(経理・小林)



千住システムテクノロジー

40 cmの積雪の中、昼休みの15分を利用して21名の社員が公道の除雪・清掃活動に参加しました。

参加者の声

- 仕事と同じ、みんなで力を合わせれば早く成果が出ます(製造技術・向井)
- 除雪した道は歩きやすくなって通行者の役に立てたと思います(製造技術・堀)



千住電子工業

県道から事業所までの通勤経路のガードレール及び周辺を、水とスポンジ、噴霧器で清掃しました。参加人数は50名以上に及びます。

参加者の声

- ガードレールの裏側にクモの巣やコケで汚く、恐る恐る磨きました(生管・小山)
- 近所の方からの「いつもきれいにしてくれてありがとうね」とのお礼が嬉しかった(生管・那須野)



栃木事業所

真岡市の「もおか環境パートナーシップ会議」に加盟し、大久保川周辺の自然保護活動を実施しています。また、事業所所周辺清掃も隔月で推進中です。

参加者の声

- やぶ蚊との戦いでしたが、きれいになった様子を見てやって良かったと思った(総務・潮田)
- 後日通りかかったときに子供たちが遊んでいる姿があり、うれしかった(品監・東)



関西事業所

兵庫県多可郡多可町中區坂本地区主催のグリーンロード作戦への参加も含め、3回にわたって清掃活動を実施しています。

参加者の声

- 清掃作業中には地域の方に感謝のお言葉をいただき、気持ちが良かった(品管・上田)
- ポイ捨てが少なくなれば、うれしいです。地域の方と一緒に継続して頑張ります(生産・本田)

社会貢献



石洞美術館

石洞(せきどう)美術館は、本社ビル内に併設されています。多くの方々に世界の美術品に触れる機会を提供し、地域文化の発展に寄与したいと考えています。



小学校教育支援

フィリピンでは、カピテ州にある「Bagbag2」小学校の1年生から3年生の全児童839名に文房具と菓子を全管理職とスタッフが手渡しました。



若手金工作家支援

公益財団法人美術工芸振興佐藤基金は、1983年から若手金工作家を奨励する「淡水翁賞」を創設し、人間国宝、大学教授など、錚々たる方々が受賞しています。



献血

栃木事業所では、年2回、日本赤十字血液センターの献血活動に協力しています。献血日には、毎年、多数の従業員が献血に参加しています。



障害者就労支援

栃木事業所では、社会福祉法人「こぶしの会」運営のパン屋による訪問販売を毎週行っています。地元の新鮮な素材を使用した焼き立てパンで、従業員から好評です。

※詳細は、財団のWEBサイトをご覧ください。
石洞美術館 <http://sekido-museum.jp/>
美術工芸振興佐藤基金(千住金属工業・本社内) <http://artcraft.satoh-foundation.jp/index.html>

千住金属工業グループは製品の開発・製造に留まらず、グループ各拠点において各種環境対応設備の導入や廃棄物の削減や再利用を推進し、環境配慮型生産を行う企業としての活動を行っております。

当社のエコ・ファクトリーとは？

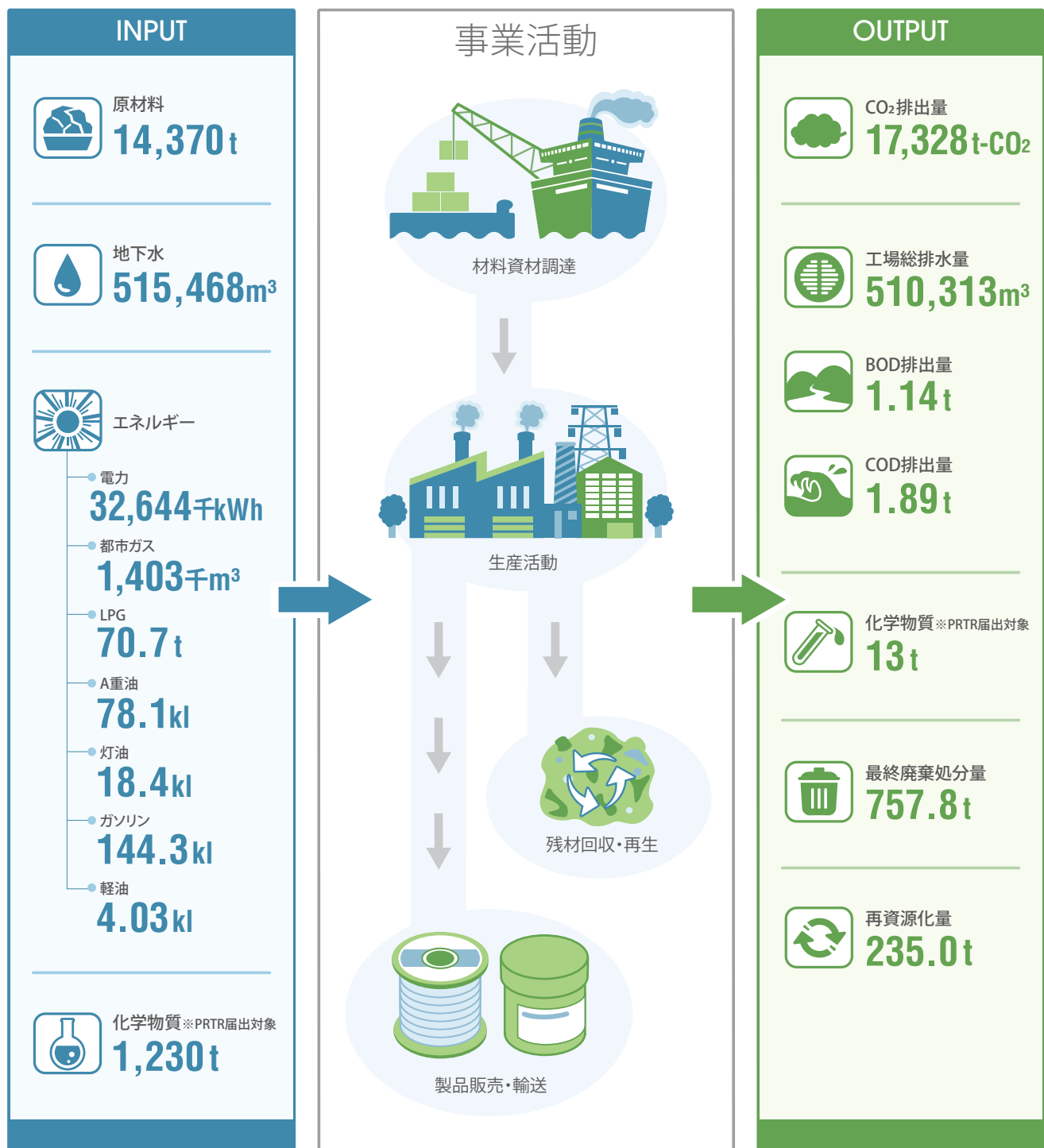
法規制順守と環境汚染リスクの低減に加えて、省エネルギーや3R(廃棄物の発生抑制、再使用、再資源化)活動を実践している工場を示します。

地球温暖化防止

事業活動に伴う環境負荷を定量的に監視、計測を行う事で事業活動によって使用したエネルギー量と排出量を把握し、省エネルギー、廃棄物の発生抑制や再利再資源化、特に定める化学物質使用量の削減などの環境改善活動を実施しております。

2013年度の事業活動における環境への排出量

2013年度の国内全拠点の目標値2011年比-2%に対して、GHG排出量17,328トン(2011年比-7.3%)を達成しました。国内全拠点の60%の排出量をしめる栃木事業所における事業活動を通じたインプット・アウトプット図を報告します。



環境対応設備

地球環境に配慮した、省エネルギー化を実現する各種環境対応設備をご紹介します。千住金属工業グループ独自の環境対応設備も開発しており、今後もさらなる省エネルギー化を推進します。



エコクーラー (液体窒素の冷気を室内へ)

栃木事業所では多くの金属を扱っており、特に夏場は金属の溶解熱が作業する人の負担となっていました。そこで工場で使用する窒素ガス冷気の利用を考え、気化器から発生する冷気を工場側で吸い上げ、夏場の「エコクーラー」として利用しています。設置当初は気化熱の回収と熱損失に苦慮しましたが、気化器に回収用囲いを作ったり、ジェットファンを取り付け約11℃の冷気を無駄なく回収し、工場4階まで19℃で送ることに成功しました。取り入れた場所は作業者の「ホッと、安らげるエリア」となっています。



◎ 断熱材による削減

加熱炉の外板に断熱材を設け、炉体外板から放出する熱を低減、特に上部からの熱は約60℃も低減させることに成功しました。電力ロスの低減及び空調負荷を抑えることにより、年間14トンの温室効果ガスを削減しました。(写真は、断熱材を敷設する前と敷設後の加熱炉)



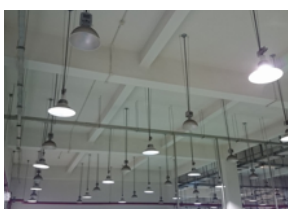
◎ コンプレッサーの省エネ対策

コンプレッサーの運転を負荷に合わせて制御することにより無駄な運転を廃止し年間300トンの温室効果ガスを削減しました。(栃木事業所)

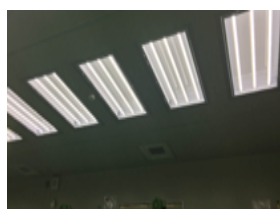


◎ ガス焼きボイラー

コージェネレーションでの冷暖房を行っておりますが、低負荷時、発電所が停止した場合でも追炊きのボイラーにて空調設備の稼働を維持しています。(栃木事業所)



▲ 北京千住



▲ 台湾千住



▲ 千住コムテック
(モーションセンサー付)

◎ LED照明の普及

日本政府の政策は、2020年に公共施設の照明のLED化100%を目指しており、2013年のLED照明の国内普及率は40%ですが、海外では5%未満です。千住金属工業グループでは、国内外の製造と営業拠点にて4,800本のLED照明に切り換え、17%のLED照明普及率(本数ベース)を達成しています。

ゼロ・エミッション活動

2013年度からゼロ・エミッション活動として、3R活動の推進、廃棄物の再資源化を進め、2020年までにゼロ・エミッションを達成することを全社の目標としています。栃木事業所では、2014年8月に90%までゼロ・エミッションを高め、さらなる向上を目指しております。



事業所から毎年排出される廃棄物の31%を占める廃プラスチックのうち11%を固形燃料(RPF)として再資源化され、石炭に代わるボイラー燃料として再利用されています。(関西事業所)



設備の保守等による交換で年間200kg廃棄していた断熱材(グラスウール)を溶融後に路盤材となる形で再資源化しています。(千住電子工業)

有機溶剤の削減



メタルマスクをエタノール系溶剤で洗浄中

第2種有機溶剤に該当するイソプロピルアルコール(IPA)を治工具や作業エリアの清掃に使用していました。作業者の健康を守るために、曝露しやすい洗浄工程を中心に、2014年11月から使用を止め、250ℓ/月の使用量を削減しました。有機溶剤には該当しない代替液であるエタノール系溶剤に製造エリアごとに順次切り替えています。

鉛の管理



鉛フリー化が進んでいますが、バッテリー製品や車載用製品や遮蔽板などには鉛を用いたはんだ製品を使います。千住金属工業では、鉛を使用している作業場での状況を年2回測定し、産業分析センターにおいて分析したり、年2回の特殊健康診断を通じてモニタリングしています。また、作業中や休憩中なども鉛からの曝露を防ぐために鉛作業主任者を選任し、保護具の使用状況や局所排気装置が正常に稼働しているかチェックし、設備や工具の清掃状況も併せて週一回巡回し指導を徹底しています。

環境委員会の活動



各職場から1～2名が参加し、環境理念である自然と事業活動の調和と環境関連法規の順守を目指し、毎月巡視パトロールによる排水設備などの維持

管理状態を監査しています。予防を重視した環境改善提案、ゼロ・エミッション事業所を目指した3R活動を推進しています。

森は海の恋人運動に賛同

森から流れ出た養分は、川を下り海に注ぎ、植物性プランクトンが育む食物連鎖を通じて魚介類に恵みをもたらします。畠山重篤さんが提唱した「漁民が山に木を植える」運動は、1989年に宮城県気仙沼湾へ注ぐ大川の流域で始まり、3万本の木を植え、その運動は全国に広がっています。植物性プランクトンの成長を助ける鉄分などのミネラル栄養分は、広葉樹の森から流れ出す淡水に多く含まれ、川からやってきます。つまり、森が失われれば、豊かな海も失われることにもなり、生態系を超えた広い範囲で相互作用を持っている事を示唆しています。

千住スプリングラー

岩手県一関市の千住スプリングラー株式会社岩手事業所では、会社周辺の山の下刈り活動をしています。同じ東北地域から活動が始まったNPO法人「森は海の恋人」に会員登録を行い、来年度から、藪はらいや植樹を通じて里山を整備していきます。
<http://www.mori-umi.org/>



生物多様性への配慮

世界には3千万種(日本では9万種)の生物が存在し、1年間に4万種もの生きものが絶滅していると言われています。種の絶滅から生態系が壊れ、私たちの生活に大きな影響を及ぼしていることが「人類の危機」として認識されています。千住金属工業は、事業活動が生物多様性に与える影響を理解し、その保全に貢献するために、自治体や環境NGO、専門機関と連携して取り組みを推進しています。千住金属工業は、「経団連生物多様性宣言」推進パートナーズとして、その趣旨に賛同し、生物多様性を育む社会づくりに向けて率先して行動しています。



千住フィリピン

フィリピン経済特区カビテ工業団地主催の里川活動「Adopt-A-River Project of PEZA-CEZ」を毎年継続して実施。今回は13名が参加し、河川への不法投棄物が問題となっている第一区画にて清掃と草刈を実施して、大型ゴミ袋に20個分の廃棄物と枯れ草を集めました。排水溝とその周辺の清掃によって、水生生物が蘇り、生物多様性の保全と人間の健康にも貢献することができます。



栃木事業所

真岡市は、「人と自然が共生する環境都市づくり」を基本方針に、「もおか環境パートナーシップ会議」を通じて、自然環境や貴重な生物を保全しています。栃木事業所は、この会議の一環として、大久保川周辺の環境調査・里山づくり・ホタルの育成に企業として参加し、社員の地域共生の自覚と生物多様性への意識を高めています。

参考:千住金属工業のWEBサイト:環境理念と環境方針

http://jp.senju.com/ja/csr/environmental_responsibility/env_management/policy.php



環境配慮型製品の開発を積極的に推進

千住金属工業が世界に先駆けて開発した、鉛フリーはんだが業界標準として使用されてから15年以上経過しました。このように、鉛フリー化に代表される規制物質に指定された化学物質の削減の他、地球温暖化防止や資源の有効利用といった社会の課題を、原材料の発掘から廃棄に至る全ライフサイクルを通して配慮する製品開発も行ってきました。今後も、常に経営理念を忘れず、様々なライフステージで社会の課題を意識した環境配慮設計を行い、新たな価値を創造する製品を開発していきます。

当社のエコ・プロダクツとは？

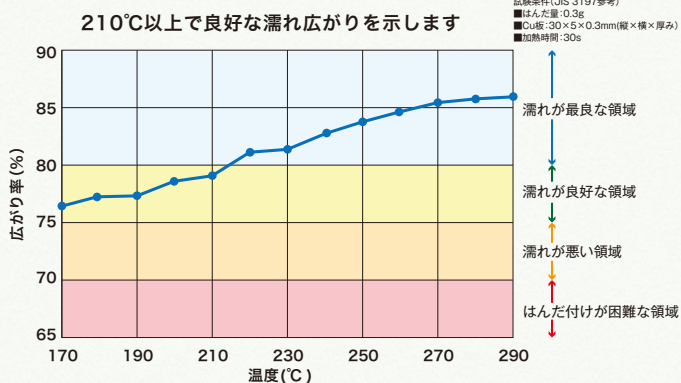
製品のライフサイクルすべてを考慮し、環境負荷を少なくした製品を示します。

お客様の省エネ化に寄与している製品

低温実装で省エネに貢献した

LEO

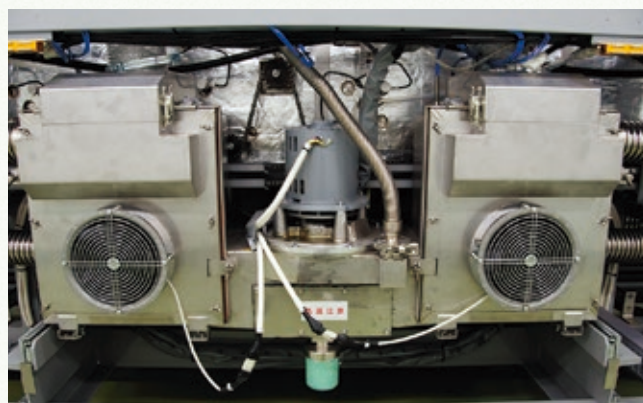
独自の加工技術と伸線技術で、業界初のSn-Bi系やに入りはんだを開発し、Sn-Bi系ソルダペーストと合わせて低温実装を加速化させています。



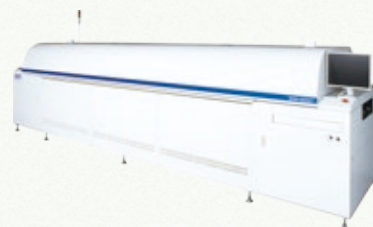
LEOは200℃でも78%と良好な濡れ性と、基板での低温はんだ付け接合を実現。はんだペーストL27-LT142も低温リフローが可能な優れた耐熱疲労特性・耐落下衝撃性を実現しました。

フラックスの回収強化で省エネに貢献した

SNR-825GT



気化したフラックスがファンに固着すると、消費電力上昇や汚染を招きますが、フラックス回収機構を強化した装置の開発で省エネに貢献、溶剤による洗浄も低減しました。



軽量化で省エネに貢献した

ALSシリーズ



燃費向上を目的に、自動車の部材は銅から軽いアルミを検討、従来のはんだは電食を招きますが、アルミ専用ALSシリーズの開発で課題を解決、省エネに貢献しています。

微細な結晶構造が省エネに貢献した

ピュアロイアノード



独自製法のアノードは、微細な結晶構造を有し、粒界に酸化物も少なく定電圧での電解メッキを可能とし省エネに貢献、汚染も少なくメッキ液の長寿命化にも貢献しています。

省資源化に寄与している製品

使用量の削減で省資源化に貢献した

RGS800



部品の微小化に伴い微小粉を用いた新しいペーストが必要になりますが、RGS800を開発して0201部品の実装を実現、接合ではんだ使用量を削減しました。

水道管の長寿命化に貢献したGXシリーズの

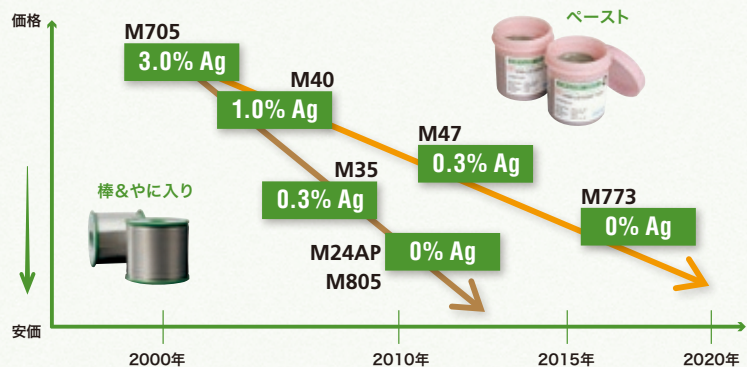
Sn-Zn-Mg線



地震国日本の水道管には、強靱な鋳鉄製品が必要です。GXシリーズは、耐食被膜のスズ亜鉛系溶射用合金の実用化で長寿命化を実現しています。

希少金属を削減したM40と使わないM773

銀は品質を確保するために必要でしたが、新しい技術で銀を少なくしたり、無くしても同等以上の性能を有する製品を開発し、資源の有効利用に貢献しました。



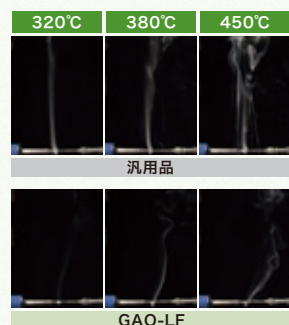
お客様の健康と環境汚染を防止している製品

作業者の健康を考えて開発した

GAOシリーズ



各温度での発煙量比較 (3秒後)



はんだ付け作業では、フラックス・ヒュームによる健康への影響が懸念されますが、作業環境を重視したGAOを開発し、ヒューム成分の暴露を防ぎました。

洗浄不要な材料でVOC*対策に貢献した

NRBシリーズ



リフロー後
フラックス残渣



溶剤でのフラックス残渣の洗浄は、大気にVOCを放出し汚染を招きますが、残渣がなく洗浄不要なペーストNRBの開発で、大気汚染の低減に貢献しました。

* VOC とは揮発性有機化合物 (Volatile Organic Compounds) の略称。

SMIC CSR REPORT 2014

千住金属工業グループ CSR 報告書



<http://jp.senju.com/ja/>

